

## 論文の内容の要旨

論文題目 現代韓国語の「-n kes-ita」文に関する考察  
— 「主題-解説」構造の観点から —

氏 名 李 英蘭

本論文は、現代韓国語の文末に現れる -n kes-ita 文（以下、kes-ita と表記）を「主題-解説」構造の観点から考察することにより、先行研究において明確ではなかった kes-ita の基本的な機能を明らかにし、kes-ita 文の全体像を示すことを目的とする。

韓国語の kes-ita は、形式名詞である kes に、指定詞の ita が後続したもので、本来は名詞文をなす。しかし、kes-ita 文には、統語的に名詞文であるものもあれば、そうでないものもある。従来の研究では、前者は kes が名詞として働き、文を「名詞文にする」という機能をしているのに対し、後者は kes と ita が一語化し、前後の文を結びつけ、それについて説明をするという「説明のモダリティ表現」とであるとみなされていた。が、「名詞文をなす」という機能と「説明のモダリティ表現」という機能は、全く別の形式であるかのように、両者の間の関連を上手に説明できないという問題がある。そこで、本論文では、両者は、いずれも意味的に主題について何かを述べるものと解釈できる点に着目し、両者の機能を網羅的に説明するためには、「主題-解説」構造という概念が有効であることを提案し、kes-ita 文を「主題-解説」構造の観点から考察した。

その結果、kes-ita 文は、統語構造の違いによって、①名詞文、②疑似名詞文、③非名詞文という3つに分けることができた。まず、名詞文としての kes-ita 文は、統

語的に名詞文であり、意味的には「主題について何かを述べている」と解釈された。次に、疑似名詞文としての **kes-ita** 文は、統語的に名詞文とは言えないが、名詞文に類似した特徴が多く見られるもので、従来の研究では「説明のモダリティ表現」であるとみなされてきたが、疑似名詞文としての **kes-ita** 文も、名詞文としての **kes-ita** 文と同様、意味的には「主題について何かを述べている」と解釈された。この点で、名詞文としての **kes-ita** 文と疑似名詞文としての **kes-ita** 文は、従来の研究において「名詞文をなす」と「説明のモダリティ表現」という別の形式に見えたものが、意味的に密接に関連していることが明らかになった。最後に、非名詞文としての **kes-ita** 文は、統語的に名詞文でもなく、名詞文に類似した特徴も全く見られないもので、意味的には「後続発話への関連を示唆する」ものとして解釈された。このような非名詞文としての **kes-ita** 文の意味は、一見、名詞文や疑似名詞文としての **kes-ita** 文の意味とは異質なものに見えるが、両者の意味解釈は、いずれも「**kes-ita** 文の意味解釈には **kes-ita** で表される部分以外に、もう一つの情報が必要であることを示す」という **kes-ita** の基本的な機能に起因していた。

つまり、名詞文や疑似名詞文としての **kes-ita** 文の場合、**kes-ita** 文の意味解釈に必要なもう一つの情報は、前の文脈や状況にある。そのため、それは、**kes-ita** 文が述べている対象、即ち、「主題」と認識され、当該の文は、その主題について何かを述べていると解釈される。それに対し、非名詞文としての **kes-ita** 文の場合は、**kes-ita** 文の意味解釈に必要なもう一つの情報を前の文脈や状況から探し出すことができなかつたため、後ろを検索しようとし、後続発話の待つようになる。そして、このような意味解釈過程が慣習化され、「後続発話への関連を示唆する」ものとして意味解釈されるのである。

このように本論文では、「主題—解説」構造の観点から **kes-ita** 文を考察することにより、**kes-ita** 文の意味解釈のプロセスの全体像が提示できた。従来の研究では、**kes-ita** の機能を、「名詞文をなす」と「説明のモダリティ表現」と区別していたため、両者の間の関連が見られず、全ての **kes-ita** 文に対し、統一的な説明が不可能であった。それに対し、本論文では、**kes-ita** 文の意味解釈に「主題—解説」という概念を導入することにより、**kes-ita** の基本的な機能を「**kes-ita** 文の意味解釈には、**kes-ita** で表される部分以外に、もう一つの情報が必要であることを示す」ことであると提案したため、「名詞文」「疑似名詞文」「非名詞文」といった統語構造の異なる全ての **kes-ita** 文に対し、統一的な説明が可能となった。これにより、**kes-ita** 文の全体像を網羅的に捉えることができると考える。